



BBS

Complete Guide Vol.2



原点である
モータースポーツでの
躍進と
“匠”の技術の融合



着替えよう、あなたの生き方を。

人生もファッションのように、感性のままに表現したら、きっと楽しい。

好きなものは、みずから見つけて、手に入れて。

いつだって心が駆けるほうを選んで。

さあ、走りだそう。

あなたらしさが加速して、人生は生まれ変わるから。

ありきたりな毎日を、すぐに追い越せるから。

生き方を自分らしく着替えるひとの、その足に。BBS。



車両の写真はイメージです。



Official Wheel Rim
Provider of Formula 1®

2022年のF1™において、参戦する全チームにBBSがホイールを独占供給します。

■F1のロゴ、FORMULA 1、F1、GRAND PRIXおよびこれらの関連マークはFormula 1会社のひとつであるFormula One Licensing BVの登録商標であり、無断複写・複製・転載を禁じます。

BBSジャパン株式会社
www.bbs-japan.co.jp



最高のお気に入り。



今シーズンのF1にワンメイク供給されるBBSホイール。スポークは伝統的な「LM-R」と同様のデザインとされた。

BBS x



2022シーズン、BBSはドライバーズチャンピオンを獲得したレッドブルのほか、コンストラクターを制したメルセデス、さらにはフェラーリやアルピーヌにもホイールを供給する。

用に発展できたことは大きいです」
常に世界中のトップカテゴリーで活躍するBBSだけに、得られる実証データの量はまさに次元が違うレベルなのだろう。

「新たなF1用のワンメイクのホイールを開発するにあたり、様々なチームの希望と要求を可能な限り融合させる必要がありました。そのために、3〜4ずつのチームがワーキンググループを組み、全てのチームから出される課題や要望をまとめ、開発チームと協力し解決策を練りながらコンセプトを作り上げていきました。ですが、最終的にすべてのチームに受け入れられるホイールを開発すること

は非常に困難な作業でした」
世界トップレベルのエンジニアリングを誇るF1チームの要望に応えるには、並外れたノウハウがないとできない。指先で繊細な感触を確かめながら1本ずつ手作業で仕上げを行なう、日独のBBSの熟練職人の匠の技でしか、高い要求を満たす最高峰の品質は成し得られなかったのではないだろうか。

一方で、ブレーキのパッケージ用スペースやディメンション、効率化、ブレーキ温度をより適切に制御できるよう設計可能になった。「ホイールやタイヤメーカーは、モータースポーツ、特にF1という特別なレースアプリケーション



BBSモータースポーツ代表
ロマン・ミシュラー氏

の開発から得られたノウハウを量販車用の技術へと応用ができるのです」
このように、量販車からレース用までBBSの製品には様々なテクノロジーが込められているのだ。伝統的なBBSの美しいスポークのデザインはホイールキャップの装着により隠されてしまうが、それによってチーム間のパフォーマンスギャップを抑え、より競争力を高めることとなり、白熱するレースが期待できるようになる。

特に昨今のF1の常となっている、特定の1〜2チームが勝ち続ける状況から、全てのチームが表彰台に立てるチャンスを得られるようにするというコンセプト実現に向けて、BBSの技術が新F1をサポートするのだ。



アメリカの人気レース「NASCAR」にもワンメイク供給

2022シーズンは、F1以外にもビッグニュースがある。北米で大人気の自動車レース「NASCAR」にもBBSホイールがワンメイク供給されるのだ。注目したいのはF1同様、ホイール径がアップされること。NASCARでは従来の15インチから18インチへとサイズアップされ、ブレーキの容量が増大することにより、さらなる安全性向上が見込まれるという。ワンメイク供給については、もちろんBBSがこれまで培ってきた高い鍛造技術によるものが大きいという。



Official Wheel Rim Provider of Formula 1®

Formula 1®



世界最高峰の自動車レースが

BBS一色に！

2022シーズンのF1ホイールをワンメイク供給

2022年のF1における最大の話は、マシン規定の大幅な変更である。その中でも注目のトピックは、ホイールがこれまでの13インチから18インチへと大径化され、しかもBBSのワンメイク供給となったことだ。これによりF1はどう変わるのか？BBSのミューラー氏に聞いた。

リポート＝池ノ内ミドリ report : M.Ikenouchi

BBSの品質の高さがワンメイク供給の決め手

最終戦のアブダビまで、王者の座を賭けて激しく繰り広げられたフェルスタッペンVSハミルトンの死闘、42歳のキミ・ライコネンがF1界から引退。そして多くの日本人の夢を背負い、惜しまれながらF1に別れを告げたホンダ。激動の2021年を終えたF1だったが、今季には新型マシンが投入され、新時代の幕開けとなる。

エアロパーツが特徴的な新マシン

ンには、旧型の13から大幅な拡大となる18インチのワンメイクホイールが採用される。そのサプライヤーとして選ばれたのがBBSだ。早速、その経緯をBBSモータースポーツ社代表取締役役ロマン・ミューラー氏に聞いた。

「当社としては長いF1の経験と実績から、ぜひともワンメイクのホイールを手掛けたいと思い、2019年にFIAで入札が行われた際に参加しました」と語るミューラー氏だが、そのガイドラインとなる品質やバジェットには非常に高いハードルが課せられたそう。しかしBBSジャパンが備える豊富な鍛造資材と高い生産性、そして開発技術もひとつの大きな決め手となり、FIAの首脳陣を納得させることができた。その名譽あるF1のサプライヤーの座を射止めたという。

一体その開発のプロセスにはどんなストーリーが隠されていたのだろうか。大幅にインチアップするということで、「高剛性化と可能な限りの軽量化」が一番の課題だったそうだが……。

「ル・マンやニル等、BBSモータースポーツが手掛けるホイールを装着したマシンが参戦する数多くのトップカテゴリーの耐久戦で、実証されている数多くの実績とノウハウを応用し、さらにF1



新型BRZのデビューに合わせ、カラーリングとデザインを一新したスバルBRZ GT300。元総監督の渋谷 真氏と、ドライバーの井口卓人／山内英輝もBBSホイールには絶大な信頼を寄せている。それはホイールづくりを工場ですぐに目にすることもよところが大きいとか。職人が手作業で作り上げるBBSのホイールの高品質ぶりに驚きを隠せなかったようだ。



能なことに加えて、例えばサーキットの縁石を乗り越えたときのような急激な入力が入った際や、車重が変化したりしたときの柔軟性が求められます。例えるならサスペンションのスプリングの役目をするようなイメージでしょうか。これについてもBBSのホイールは粘りがあるので対応できていますね。それと現在は市販モデルのR1Aほぼ同じデザインなのですが、タイヤ交換する際にスポークが細かすぎず広すぎず持ちやすい、という声も聞いてます。これはメカニックにとってありがたいことでしょう。さらにサクセスウエイト（ウエイトハンデ）が増えて心配して

勝利の
立役者達が語る
ホイールの重要性とは

SUPER GTチャンピオンマシンの 足元を支えるBBSホイール

山内・スーパージニアはタイヤ開発が激しいのでタイヤの限界が上がってくるんです。それに対応するようにタイヤが濡れたときの粘りが圧倒的に強い方が、コーナリングスピードとともに、そのあとの蹴り出しの良さにもつながるので重要だと思っていますね。

井口・レースでは縁石に乗るのは普通です。もちろんその時のしなやかさは重要です。それ以外に他車と接触したときの強さも兼ね備えていると思います。

山内・スーパージニアはタイヤ開発が激しいのでタイヤの限界が上がってくるんです。それに対応するようにタイヤが濡れたときの粘りが圧倒的に強い方が、コーナリングスピードとともに、そのあとの蹴り出しの良さにもつながるので重要だと思っていますね。

山内・スーパージニアはタイヤ開発が激しいのでタイヤの限界が上がってくるんです。それに対応するようにタイヤが濡れたときの粘りが圧倒的に強い方が、コーナリングスピードとともに、そのあとの蹴り出しの良さにもつながるので重要だと思っていますね。

山内・スーパージニアはタイヤ開発が激しいのでタイヤの限界が上がってくるんです。それに対応するようにタイヤが濡れたときの粘りが圧倒的に強い方が、コーナリングスピードとともに、そのあとの蹴り出しの良さにもつながるので重要だと思っていますね。

市販車では性能に加えて、ドレスアップ的な要素も強いホイールだが、ことレースの世界となると話が違う。軽さや強度が高いのはもちろん、縁石を乗り越えたり急激なGが掛かるホイールにはどんな性能が求められるのか？ SUPER GTの300クラスでチャンピオンを獲得したスバルBRZ GT300のエンジニアと両ドライバーに話を聞いた。

リポート＝相澤隆之（ル・ボランカーズミートweb） フォト＝郡 大二郎 report：T.Aizawa photo：D.Kori

軽さと強さ以外に
求められる性能とは？

2021年11月28日、富士スピードウェイで開催されたスーパージニアの最終戦で、スバルBRZ GT300が悲願のシリーズチャンピオンを獲得した。その足元に装着されていたのはBBSホイール。BBSがスバルBRZ GT300にホイールの供給をスタートしてから、実に9年がかりの初チャンピオン奪取である。

今シーズン安定した走りを見せたBRZ GT300。この激戦のレースで、BBSのホイールはどれだけ貢献していたのか？ 昨年まで総監督を務めていた渋谷 真氏と、井口卓人・山内英輝選手の両ドライバーに話を聞いた。



2012年にマシンをBRZに変更したタイミングに合わせ、装着するホイールにBBSを選んだスバル。これまで優勝はしていてもシリーズを制することは叶わなかったが、今シーズンはコンピを組む井口卓人／山内英輝の安定した走りにより、念願のチャンピオンを獲得した。



SUBARU BRZ GT300ドライバー
山内英輝 選手



SUBARU BRZ GT300ドライバー
井口卓人 選手



スバルテクニカインターナショナル
モータースポーツ技術統括部
SGTプロジェクト PSM
渋谷 真氏

BBS x SUBARU BRZ GT300



ラルス・ケルン

49th
ADAC TOTAL 24h race
Nurburgring

BBS ×

ビービーエス × マンタイ・レーシング

世界一過酷なコースで繰り広げられる24時間のサバイバルレース。
そのニュルブルクリンク24時間耐久レース常勝チームのマシン、
ポルシェ911GT3Rが採用するBBSアルミ鍛造ホイールについて、
レースを闘うトップガンたちを集め、その真価を語ってもらった。

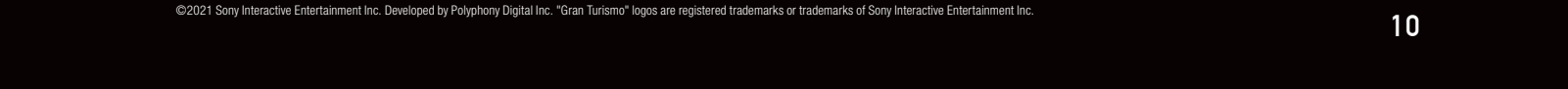
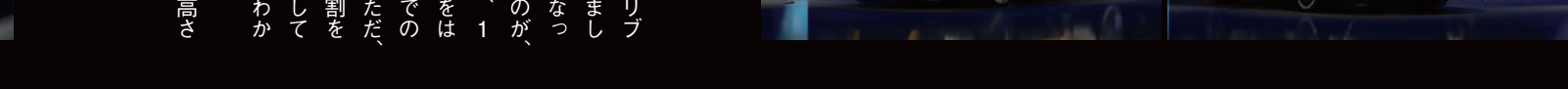
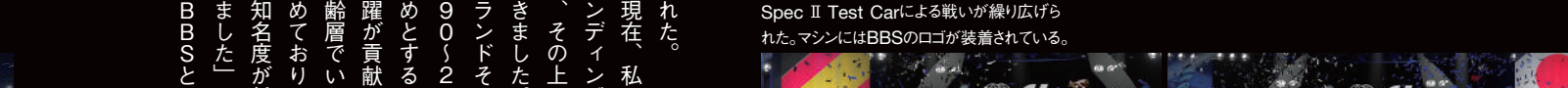
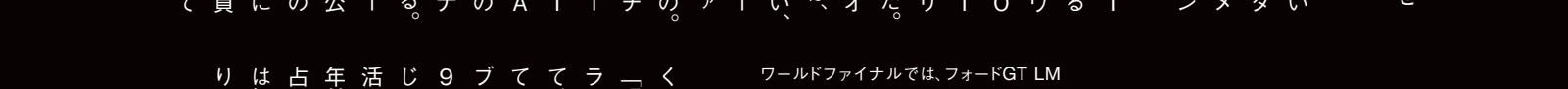
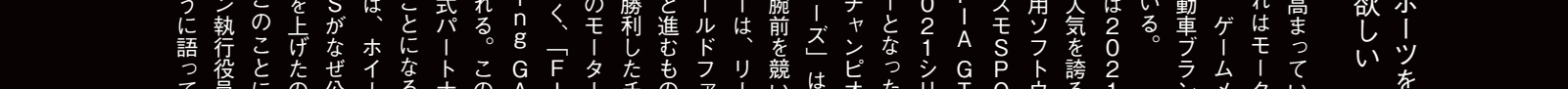
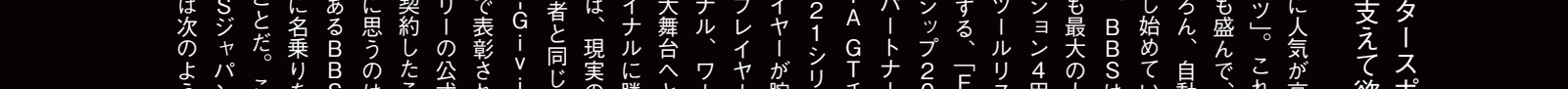
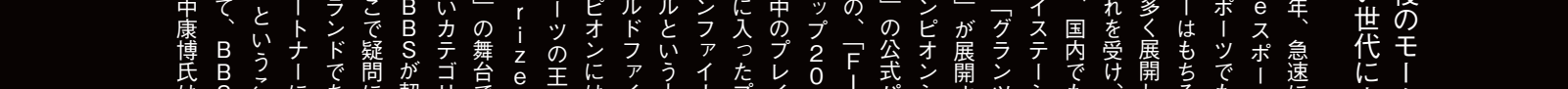
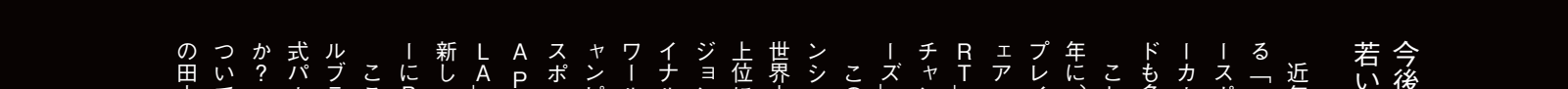
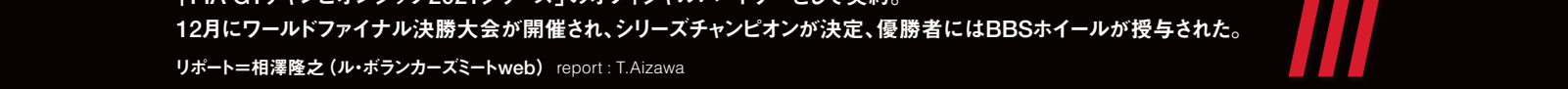
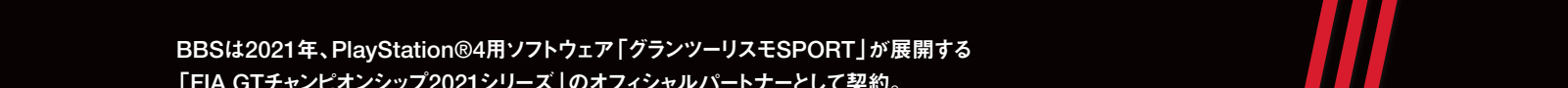
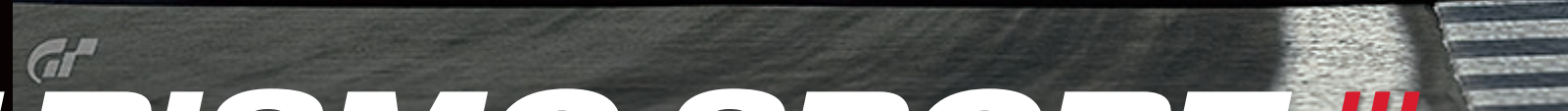
Manthey-Racing
PORSCHE 911 GT3 R

08



優勝したイタリアのヴァレリオ・ガロ選手は「魔法のような体験です。サポートしてくれた方にこの勝利を捧げたいです」とコメント。

会場にはグランツーリスモシリーズプロデューサーの山内一典氏とBBSジャパン執行役員の田中康博氏が登壇。セレモニーを行なった。



に加え、世界各国のレースでの活躍が認知されていることもあって、旧来からのクルマ好きなら有名なホイールメーカーとして知られているが、昨今の若者のクルマ離れの影響もあり、彼らにとっては自動車ブランド以上に触れる機会がなく、認知度は低いことであろう。「そこで目を付けたのがeスポーツです。グランツーリスモのプロデューサーである山内一典氏に聞いたところ、チャンピオンシップでトップの方たちは若者が圧倒的に多いとのことでした。私どもはモータースポーツが原点ということもあり、今後彼らにそれを支えてもらうとともに、是非ともBBSを知っていただきたいという思いからサポートさせていただくことになりました」

さらにBBSは、2022年3月に発売予定の最新作、グランツーリスモ7においても、ブランド

BBS × GRAN TURISMO SPORT

公式パートナーを務めるFIA グランツーリスモ チャンピオンシップ 2021シリーズの

チャンピオンにBBSの鍛造ホイールを授与

BBSは2021年、PlayStation®4用ソフトウェア「グランツーリスモSPORT」が展開する「FIA GTチャンピオンシップ2021シリーズ」のオフィシャルパートナーとして契約。12月にワールドファイナル決勝大会が開催され、シリーズチャンピオンが決定、優勝者にはBBSホイールが授与された。

リポート＝相澤隆之（ル・ボランカーズミットweb） report：T.Aizawa

今後のモータースポーツを若い世代に支えて欲しい

近年、急速に人気が高まっている「eスポーツ」。これはモータースポーツでも盛んで、ゲームメーカーはもちろん、自動車ブランドも多く展開し始めている。

これを受け、BBSは2021年に、国内でも最大の人気を誇るプレイステーション4用ソフトウェア「グランツーリスモSPORT」が展開する、「FIA GTチャンピオンシップ2021シリーズ」の公式パートナーとなった。この、「FIA GTチャンピオンシップ2021シリーズ」は、世界中のプレイヤーが腕前を競い、上位に入ったプレイヤーは、リーグジョインファイナル、ワールドファイナルという大舞台へと進むもの。ワールドファイナルに勝利したチャンピオンには、現実のモータースポーツの王者と同じく、「FIA Prize Giving Gala」の舞台で表彰される。この新しいカテゴリーの公式パートナーにBBSが契約したことになる。

ここで疑問に思うのは、ホイールブランドであるBBSがなぜ公式パートナーに名乗りを上げたのか？という点だ。このことについて、BBSジャパン執行役員の田中康博氏は次のように語っている。

「こちらはドレスアップ的な要素が強いかと思いますが、実車と異なりゲーム上のどんな車種でもBBSのホイールを装着することが可能です。また、ヴァーチャルコースには、コースサイドにBBSの看板が設置されることになりました」

今回、12月初旬に開催されたFIA GTチャンピオンシップ2021シリーズのワールドファイナルネイションズカップでは、シリーズを通して圧巻の強さを見せたヴァレリオ・ガロ選手（イタリア）が、ランドファイナルでも見事な走りを見せ見事シリーズチャンピオンを獲得。副賞として

チャンピオンを獲得したヴァレリオ・ガロ選手には、副賞としてBBSの鍛造アルミホイールが特別に授与された。

「現在、私たちBBSでは、リブランディングを進めておりまして、その上で様々な調査を行なってきました。そこでわかったのが、ブランドそのものの知名度は、1990〜2000年代のF1をはじめとするモータースポーツでの活躍が貢献して高いのです。ただ、年齢層でいうと45才以上が7割を占めておりまして、若者に関しては知名度が低いということがわかりました」

BBSといえばその品質の高さ

ワールドファイナルでは、フォードGT LM Spec II Test Carによる戦いが繰り広げられた。マシンにはBBSのロゴが装着されている。

「現在、私たちBBSでは、リブランディングを進めておりまして、その上で様々な調査を行なってきました。そこでわかったのが、ブランドそのものの知名度は、1990〜2000年代のF1をはじめとするモータースポーツでの活躍が貢献して高いのです。ただ、年齢層でいうと45才以上が7割を占めておりまして、若者に関しては知名度が低いということがわかりました」

BBSでも人気を誇る、BBSの鍛造ホイールが特別に授与された。このように、グランツーリスモシリーズへ積極的にサポートしているBBS。これらの活動により、若い世代がこれからクルマを購入する際に、BBSホイールを装着したい、という気持ちになってくることを期待したい。

匠の手触り。

日本の歴史に欠かせない日本刀の文化を現代に受け継ぐ者。月山（がつさん）鍛錬道場で日本刀を追求する刀匠 月山である。何度も何度も鍛錬する「百錬製鐵」を己に課して実践してきた月山貞利師匠の日本刀は、我々を魅了させる美しさを持つ。その美学はBBS製鍛造ホイールにも通じるところがあった。

リポーター 中三川大地 フォト 白谷 賢（刀匠 月山）、三井伸太郎（BBSジャパン 高岡工場）、佐藤亮太（BWMW）
report : D.Nakamigawa photo : K.Shiratori S.Mitsui R.Sato

伝統を守り挑戦を続ける
国宝的刀鍛冶職人の現場

日差しを遮った暗い鍛冶場で、勢いよく燃え盛る炉の炎が眩しい。職人たちが炉に息を吹き込み、藁で木炭を叩いて火の加減を調節しながら、その中にある真っ赤な玉鋼を見つめている。日本刀のために特別に精錬される合金を玉鋼という。真っ赤に焼けた色味から状態を見極めるために、部屋を暗く閉ざしているのだらう。

その後、大きな槌を持って身体全体で振りかざすように何度も何度も玉鋼を打っていく。風通しない焼き場の、しかも炎のすぐそばで全身全霊を込めて玉鋼を打ち続ける。額から汗がしたたり落ちながら、火花が身体に降りかかってしまったく物怖じすることがない。いきなり伝統職人のオーラに圧倒されることになった。

奈良県桜井市 大神神社すぐそばの山あい、月山日本刀鍛錬道場がある。ここでは奈良県指定

無形文化財保持者にして全日本刀匠会顧問である月山貞利師匠と、その長男であり後継者の月山貞伸氏、数名の弟子たちによって、日々伝統の槌音を響かせながら、気高く美しい日本刀を紡ぎあげてきた。日本刀自体の歴史は1000年以上と言われるが、月山鍛冶は鎌倉時代に生まれた。日本刀が武器としての役目を終えた現代でも、芸術品や文化遺産として、技術と伝統は生き長らえている。

槌で打っては火に入れて何度も繰り返し、やがて薄く平坦になつたら今度は折り返して選別する。こうした作業を10回以上も繰り返し、鍛えた玉鋼を何枚も重ね合わせ、ふたたび鍛錬していくことで、やがてスラリと伸びた日本刀の姿形へと導く。部位ごとに素材や焼き方、叩き方をわずかに変えたものをつなぎ合わせることで、強いながらも絶妙なしなりがあり、抜群の切れ味と芸術的美しさを併せ持つ名刀になるのだという。こうした工程によって、刃身全体にうつすら波模様が浮かび上がるのが特徴で、いつしか月山鍛冶の日本刀は「綾杉肌」「月山肌」と呼ばれる流派となった。

「何十本と作っても、モノになるのはせいぜい2、3本。1本作るのに1年以上の時間をかけることも珍しくない。とても過酷で、そして効率の悪い仕事です。今では偉大なる先代の意思を受け継いで、いい刀を持って技術を後世に残すことだけを考えています」

それはまさに「鍛錬」という表現がふさわしく、また月山鍛冶の魂である「百錬精鐵」を感じさせる師匠の言葉だった。その後の焼き入れ、刀研ぎなどの工程にもすべてきめ細かい職人技と、刀作りにかける情熱を感じさせた。

こうした工程が描く綾杉肌と並ぶ、月山鍛冶のもうひとつの特徴は月山彫（刀身彫刻）だ。完成した日本刀の刀身に、文字や模様を彫刻するものである。かつては権力の象徴である信仰の現れを示すものだった。多くの鍛冶職人は彫刻を専門の彫刻師に委託してきたが、月山鍛冶ではすべて鍛冶職人みずから彫っていく。己の発想

現在、BBSジャパンの高岡工場には最新鋭の1万2000トンプレス機を筆頭に、10台近くのプレス機が稼働している。鍛造工程の多くはオートメーション化され効率的になったものの、当時はプレス機のそばに人が張り付く必要があった。キモとなる鍛造型の設計では、今でも五感や手触りを使った職人の腕前が欠かせないという。

▶鍛冶場の中には大型の炉が置かれ、炭火により玉鋼を熱しながら、槌を使って叩いていく。鍛錬した玉鋼を複数接合しながら伸ばしていくことで日本刀の形状へと導く。玉鋼の色味を見極めるため、日差しを遮った状態なのが常だ。風通しはなくエアコンもない。その最中で火と隣り合わせの作業を続けるのは相当に過酷なはずだ。

鎌倉時代初期から続く 由緒正しき月山鍛冶

月山鍛冶は鎌倉時代初期に奥羽月山（山形県）で生まれ、「綾杉肌」や「月山彫」などの技法で有名になった。時代ごと栄枯盛衰を経たが、江戸時代（天保期）に大阪へ移住し大阪月山として再興。現在は奈良県桜井市にある鍛錬道場を構え、月山貞利師匠と月山貞伸氏、弟子たちが刀鍛冶を営む。同所には記念館も併設しその歴史をたどることができる。

月山日本刀鍛錬道場（記念館）
◎奈良県桜井市大字茅原228-8
◎☎0744-42-3230 ◎http://gassan.info

月山貞伸氏

現在、道場を牽引する月山貞利師匠。大阪月山家の五代目として綾杉肌や月山彫を継承しながら力作を多く残してきた。奈良県指定無形文化財保持者にして全日本刀匠会顧問。現在は息子の貞伸氏も鍛冶職人として活動する。両氏ともに伝統を守りつつ新しい作品を模索している。

月山貞利氏

両者に宿るのは、究極的に「機能」を追い求めてきた職人の魂。



技術者や職人全員が集まって、手と顔を真っ黒にしながらその仕上がりに一喜一憂する。そうした経験の蓄積は、技術が進歩しインフラを拡充させた今だからこそ、逆に何にも代え難いブランドの財産だと彼らは考えている。

先に述べたように、日本刀は明治時代の廃刀令とともに武器としての役目を終え、業界としては衰退した。多くの鍛冶職人は他業種へと舵を切り、それが現代の工業製品を支える礎にもなった。だが月山鍛冶を筆頭とする伝統職人たちは、それでも日本刀技術を守り、後世に伝え、世に芸術作品を残してきた。そうした意味で、日本刀は武器という存在から伝統工芸品へと発展的成長を遂げた。

それだけの魅力がBBS製鍛造ホイールにも宿っているように思えた。もし、クルマが将来的にインホイールモーターになったり、空を飛んでしまったり、アフターホイールは機能部品としての役目を終えるかもしれない。それでもBBS製鍛造ホイールは伝統工芸品として受け継がれていくはずだ。BBS製鍛造ホイールには、そう思えるほどの、日本古来の名刀と並ぶような魅力が漲っている。



や顧客のオーダーに応じて、模様や文字を掘ってきた。

この伝統を大切に守りながら、決して過去を踏襲するだけではなく、常に挑戦を続けていることも



▲厳選した玉鋼を精錬する折り返し鍛錬。刀の形を作り上げる素延べや火造り、刃文と反りを決定付ける焼入れ、形を整える鍛冶押などの工程を経て日本刀は作られていく。成型したあとは職人によって刃の部分をきめ細かく研いでいく。こうした工程はすべて職人の経験と勘所を駆使したもので図面やデータなどはない。10本以上を作ったようやく1本がモノになる、というような世界だという。そこで名刀ができれば時代を超えて評価される。

月山鍛冶の日本刀は「綾杉肌」「月山肌」と呼ばれる独特な鍛え肌にある。鍛錬によって刃身全体に波のように流れる鍛え肌のことを示す(写真左)。また月山鍛冶の職人は、自らで刃身に彫刻を加えていく。龍や滝不動など美しい彫刻が数多く見受けられる(写真右)。これらの彫刻は決して伝統に縛られることなく、新たな表現を模索し続けている。



知った。とある外国人からのオーダーを踏まえた昇り竜の模様など、固定概念に固執しない自由な雰囲気がある。また、貞利師匠が製作した直刀は、過去のモデルとなった刀に金象嵌されていた「丙子椒林」の四文字を「世界平和」に置き換えている。古典に倣いながらも、まるで現代の理念を吹き込んだかのような。それにしても戦に使う道具に「世界平和」と刻むなんて、とても粋だと思えた。

最新鍛造技術の根底に宿る刀鍛冶と同じ職人の魂

一連の工程そのすべては、現代の工業製品の原点のようでもあった。特にBBSジャパンの活動である、鍛造ホイールの生産と重ね合わせた。かねてより高岡工場が生産されてきたBBS製鍛造ホイールもまた、専用の鍛造素材を用いて複数回にわたって専用合金をプレス（鍛造）し、その後も切削を含めた金属加工を経て、はじめてホイールとして結実する。BBSの工程は今やその多くがオートメーション化され、コンピュータによるプログラミングや解析も欠かせないものとなった。それでもその原点にあるのは月山鍛冶に宿るようなアナログな感覚だ。人間の目と耳、そして手触り、そこからの創造力を駆使して作り上げて



BBSのフラッグシップにして超超ジュラルミン鍛造製法を採用するRI-D。伝統であるクロススポークを踏襲しながらそれを極限まで鍛え上げた結果として、わずか5本のクロススポークとなった。細部を見ても極限まで薄く細く極限まで駄肉が削られた造形を持つ。徹底した性能追求型だからこそ、その造形はどこか伝統工芸品のなめしさも感じさせる。

▼BBSジャパンの生産工場は、今ではその多くがオートメーション化されている。前頁で紹介した鍛造工程の後は、スピニングや切削加工を経ておなじみのクロススポークを持つBBS鍛造ホイールができ上がる。写真にはないものの、成型後は新設された四日市工場へと輸送され塗装工程へと移る。ここはフルオートメーションの塗装工場で、高品質かつ安定的な塗装を可能とする。これら工場では自動車メーカーのOEMも請け負っている。



きた職人たちが今も腕をふるって、手書きの図面を基に型を起こし、ひとつひとつ手作業で実験、検証した時代から鍛造ホイールを生産してきたのだ。プレス機の前には

New Brand Message

さまざまなライフスタイルが認められる時代に応え、
BBSは、新しいブランドメッセージを発表します。

BBSが情熱を注ぐもの、それはゆるがない本質です。
時代や世代を超えて。BBSと過ごした時間も超えて。
人生をともにするオンリーワンの存在になる。
そんな本物のホイールだけを創造していく、決意を込めて。

BBS

最高のお気に入り。

車両の写真はイメージです。



Official Wheel Rim
Provider of Formula 1®

2022年のF1™において、参戦する全チームにBBSがホイールを独占供給します。

■F1のロゴ、FORMULA 1、F1、GRAND PRIXおよびこれらの関連マークはFormula 1会社のひとつであるFormula One Licensing BVの登録商標であり、無断複写・複製・転載を禁じます。

BBSジャパン株式会社
www.bbs-japan.co.jp

